

第8回新しい学校づくり阿南市地域協議会議事録

【協議題】

新しい学校の教育環境の整備等について

【協議】

○再編統合時期について

委員

今日の議題は2つありますが、まず最初に再編統合時期についての協議から始めさせていただきます。何点か再編統合時期に関する事で、事務局にお尋ねしたいと思います。まず、再編統合時期に関して、他の地域協議会の報告書ではどうなっているのでしょうか。また、事務局としては再編統合時期について、どのように考えているのでしょうか。まず初めにこの点について、教えていただけたらと思います。

※再編統合時期に関する他の地域協議会の報告書の記載内容についての説明

県教育委員会

再編統合時期につきましては、高校再編方針に基づき、阿南市地域においても、他の3地域と同じく、できるだけ早期の再編に向けて取り組んできたところです。

委員

他の地域協議会の報告書では、再編統合時期について、できるだけ早期にということ、期日の具体的な年度は記載されていないのですか。

県教育委員会

報告書には、期日についてははっきりとした記載はしておりません。

委員

これまでの協議会において、中長期的なことを見据えたご意見や、中高一貫教育など、地域の高校の状況変化を踏まえたご意見などがたくさん出ています。確認のために、阿南市地域の生徒数の状況や、地域の高校の状況変化について確認をしておきたいと思いますので、説明をいただけたらと思います。

※阿南市地域の中3生徒数・阿南市地域の高校の状況変化についての説明

委員

現状から、相当な状況変化があることはわかっていただけたと思います。

委員

他地域の再編計画はできているのですか。

県教育委員会

他地域では、できるだけ早期に再編統合を行うべきであるという報告書をいただいて、それをもとに県が再編計画を策定し、実際の再編年度を決めております。鳴門市地域は平成24年度に新高校が開校し、鳴門工業の校地で一緒になるのは平成27年度、吉野川市・阿波市地域は平成24年度に鴨島商業の校地に新しい学校ができます。それから美馬市・つるぎ町地域は平成26年度に貞光工業の校地に新しい学校ができる予定です。

委員

平成32年度以降、再編計画時の生徒数と現在の生徒数に大きな差が出たのは、なぜでしょうか。

県教育委員会

平成18年の計画時には、平成32年度以降の子どもはまだ生まれていなかったもので、予測数値となっています。現在は実績が出ていますので、平成36年度までは実際の数値となっています。

委員

富岡東高校の中高一貫と富岡西高校の理数科の設置によって、阿南市地域に残る高校生が多くなるのではないかと説明がありましたが、私もそう思います。もう一つ、阿南市地域の社会・経済状況、とりわけ企業の動向を考えると、日亜化学工業や自衛隊の誘致が決まるなど、中長期的には阿南市における産業構造、経済構造の変化によって、人口がこれから増えていくので生徒数も増えるのではないかと思います。

県教育委員会

富岡東中学校、富岡西高校の理数科の設置で、徳島市内などに行く生徒が地元で止まる率が上がるのではと考えています。また、人口の問題や企業の業績は、予測しにくいところはありますが、再編の7地域の中で、この阿南市地域は当面、生徒数の減が見られない地域であると思います。

委員

現時点では阿南市の人口は減っているので、楽観的に予測することはなかなか難しいと思います。ただし、他の地域と比べると、阿南市地域の生徒数の減少は少なく推移していることは間違いのないと思います。

では、この協議会では、報告書に再編年度のことをどのように記載すればよいか、協議していただけたらと思います。

委員

将来において、いろいろと新しい状況が発生しているので、今拙速に再編してもよいのかという心配があります。

状況変化を調査し、見極めて、それを踏まえて本当に素晴らしい新高校を作るという1つのビジョンを立てて、もう少し時間をかけて検討する必要があると思います。

委員

少なくとも平成29年度までは生徒数が減らない状況の中では、阿南市はそれほど再編を急ぐ必要はないと思います。再編する限りは、もっと新しいインパクトのある高校を目指し、少なくとも平成26、27年ぐらいまでは、状況を見なければいけないと思います。

委員

少子化での生徒数の減少は、本県だけではないと思います。他県でも同じような取り組みをしていると思いますが、他県の研究はしているのですか。余裕があれば、成功事例を取り入れて、じっくり再編していただければと思います。

県教育委員会

全国的に、同時期ぐらいから高校再編の検討を始めて、各県とも取り組んでいるところです。もちろん、すでに再編が終わっている県もあると思いますが、その効果、検証はこれからだと思っています。

本県は、全国的な状況も踏まえながら再編方針を策定し、これまで3つの地域で再編の計画を作って、進めているところです。

委員

阿南市には県南部健康運動公園があるので、高校教育で将来利用するように県としても取り組んで欲しいと思います。

また、拙速にして中途半端なものを作るのではなく、少々時間をかけてでも、モデル校となるようにじっくり考えて欲しいと思います。

委員

再編の話が出ると、その学校に対するイメージがダウンします。ただらと時間をかけるのではなく、ある程度早い時期に再編するのが良いと思います。

委員

再編整備期間は、平成22年度から30年度までの期間であったと思います。

遅くても、それまでには再編を終わらなければいけないのですか。

県教育委員会

平成30年度までに段階的に再編整備を進めていくという計画になっていますが、まずは、きちんとした方向性を示すことが一番大事であると思います。

委員

少子化のため、県下全体の生徒数は減っています。長い目で見たら阿南市も減っていく可能性は高いと思いますので、再編を早く実施した方が良いと思います。

県教育委員会

県としてはできるだけ早期と考えていますが、地域協議会は地域の皆さまのご意見を伺い、地域の声を大事にするということで行っています。できるだけ皆さまのご意見をいただいて、再編に生かしていきたいと思っています。

委員

様々な角度から、再編統合時期についてご意見をいただきました。

県教委としては、早期に再編をという考えのようですが、委員の方々のご意見では、この地域では、今後の状況変化をしっかりと踏まえた上で、地域のニーズに応じた再編を行うべきであるというご意見が多かったように思います。

再編時期については、今回いただいたご意見を整理した上で、次回、報告書に書く内容を決めたいと思います。

委員

お願いがあるのですが、これまでの協議の中で新しい学校についての工業教育の方向性は、ある程度合意をいただいていると思います。阿南工業としては、再編時期にかかわらず、類・コース制から小学科制にできるだけ早い段階で移行していきたいと考えています。そこで、この地域協議会で協議した内容で、再編までの間に取り組めることを、報告書に記載していただけないでしょうか。

委員

委員から、高校でのこれからの取り組みについてのご意見をいただきました。重要なご意見だと思いますので、次回に協議をしたいと思います。

委員

見極めの時期については、ある程度具体的に明確にしておかなければいけないのではないのでしょうか。また、統合の基本的な方向性は打ち出していかなければいけないのではないのでしょうか。

委員

統合の目標の基本方針は報告書に記載しなければいけないと考えています。

基本方針、教育内容は今までに協議しておりますので、それをまとめて報告書に記載したいと思います。

再編統合時期については、どのように記載すればいいのでしょうか。

委員

少なくとも平成30年までにはしておかないといけないと思います。そのためには、3年ぐ
らいの準備期間は必要ではないでしょうか。

委員

ある程度、大まかな目安は必要ではないでしょうか。

県教育委員会

県としては、できるだけ早期にと考えていますが、少なくとも再編方針にある平成30年度
までが1つの目処と考えています。

委員

再編統合時期の表現方法については、今日の意見を踏まえ、事務局に考えていただき
たいと思います。

○設置場所について

※新しい学校の教育環境等についての説明

委員

これから、設置場所について協議してもらおうのですが、どのような視点・要素から設置場
所を考えていけばよいか、ご意見をいただきたいと思います。

委員

その前に、今回のこの協議会の報告書は、いつ県教委に提出するのですか。

委員

提出につきましては、次回に報告書の案を作成して、その案で皆さま方の承認を得られ
たら、提出したいと思います。

委員

阿南市地域の場合、状況変化が大きく、まだ議論の余地が残っている中で、報告書に設
置場所を明確にしなければいけないのですか。

委員

できるのであれば、他地域でも報告書の中に記載しているので、設置場所も決められれ
ば良いと思います。

委員

もう少し時間をかけて検討しようという意見がある中で、設置場所を決めなければいけな
いことに疑問を感じます。

委員

望ましい立地条件を挙げて、最終的には状況を検討した上で、いろいろな条件を満たす場所に設置をする方向にせざるを得ないのではないのでしょうか。

委員

どういう視点から考えて、設置場所を考えていくか、議論しておく必要があると思います。

委員

統合するというのは、生徒が集まらないのが一番大きい原因なので、生徒が集まりやすいようにした方が良くと思います。

委員

生徒が集まるには、いろいろな要素があると思います。そのために、どのような学校を目指したらよいか、もう少し具体的な要素を出していただけたらと思います。

委員

中学生の場合は普通科志望が強く、専門高校に進学を希望する生徒は少ないのが現状です。生徒が行きたいと思えるような魅力ある編成が必要です。

再編を考えた場合は、県南部全体で考える必要があり、全体の発展を考え、一極集中型ではなく分散した方が良くのではないかと思います。

委員

県南部全体の高校配置のバランス以外にも、工業科のバランスを考え、新野と阿南工業どちらの方が生徒が集まりやすいのかというのも1つの要素になると思います。

委員

今の施設・設備をいかに活用するかという視点も考える必要があると思います。

委員

施設は何十年後かに建て替えます。問題は施設でなくて、どこに建てるかということだと思います。決めるポイントをきちんとして、何を一番基本に考えたら良いのかをはっきりさせた方が良くと思います。

委員

当初から、両校の施設を活用することには反対でした。もう少し長期的に考えて、費用のことは考えないようにしてほしいと思います。

委員

理想を言えば、新しいキャンパスに新しい校舎で魅力ある中身を作るのが一番です。そ

の上に、地域バランスを条件に入れて考えないといけないと思います。当然、将来の生徒数、県南全体のことを考慮していかなければいけないと思います。

委員

高校生は1年生から3年生まで年代がわたっているので、安全に通える場所というのが大事ではないかと思います。また、ある程度、学校に空間があることも大事だと思います。

委員

生徒が集まるというのは、場所ではなくて新しい学校の魅力だと思います。新しいキャンパスで新しい高校を作るのが理想であり、県民はそれを期待しています。

また、市街地集中でなくローカルなところに、3つあるのなら1つを設置するべきだと思います。那賀や海部を含めて、長期的な展望を十分踏まえて考えてするべきだと思います。

委員

生徒が集まる要素の中には、利便性や生徒が多いところ、近いところも大事ではないでしょうか。

委員

質問ですが、実際に設置する時に、阿南市の行政と調整することはあるのですか。

県教育委員会

設置場所については、協議会の委員の方々からいろいろな意見を出し合ってもらい、最終的には県教委の方で決定させていただくこととなります。

委員

どちらかの校舎を活用するというのは、財政的な面が理由なのですか。

県教育委員会

財政的な面も大きいと思います。また、どちらかの校地を活用して、新しい高校を開校した方がスムーズに早く開校できるという要素などもあると思います。

委員

各委員の皆さま方から校地について貴重なご意見をいただきました。今回いただきましたご意見やこれまでのご意見を整理した上で、次回に報告書の内容について検討したいと思います。

今日、再編統合時期と設置場所について、いろいろなご意見をいただき、一応今回の協議で、阿南工業高校と新野高校の2校の再編統合に関する協議事項は一通り終わることができました。協議会も今年で4年目となっておりますので、できれば今年度中には報告書をまとめていきたいと思っております。

以上をもちまして、本日の協議を終了させていただきます。